

2013 年11月通常会議 第230号大津市教育委員会委員の選任（日渡円氏） についての反対討論

2013 年 12 月 11 日

杉浦智子

私は日本共産党大津市会議員団を代表して、ただいま提案されています議案第 230 号 大津市教育委員会委員の選任について に対する反対討論を行います。

本議案は、現委員である竹内孝子委員の任期満了に伴って、新たに日渡 円氏を任命しようというものです。

先般の本会議での質疑の中で、今回の選任における現教育委員に対する事前の意見調整や顔合わせの有無についての質問に対し、市長は、「選任は市長の権限であり、教育委員としてふさわしい人物であると判断したもので、手続き上確認を求める必要はないが、委員には説明した」とおっしゃいました。

なるほど市長に任命権があることも、手続の上での事前確認が必要ないことも承知しています。しかしながら、今後、ともに重責を担ってもらう教育委員との事前の顔合わせや意見聴取などは、あって然るべきなのではないでしょうか。たとえ権限とは言え、これまで大津市との接点がほとんどなかった人物をいきなり選任すると説明だけして、押しつけるという権限を振りかざしたやり方は、市長の横暴とも捉えられます。合議を大事にする教育委員会にはふさわしくありません。

また、市長が日渡円氏を大津市教育委員会委員に選任するにふさわしいと思われた理由や期待が、日渡氏の宮崎県教育委員会の事務執行の長、五ヶ瀬町教育長や兵庫教育大学での研究といった経験と実績にあることが明らかとなりました。豊富な実践を大津市の教育行政に活かしてもらおうということでしょうが、やはり地方教育行政を担ってもらう教育委員は、地域に通じ、地域子どもたちとの接点を持つ方を選任すべきだと考えるものです。

とりわけいじめ問題での第三者委員会から指摘された、大津市の教育が抱える問題の解決のためには、これまでの大津市の現状や特徴を踏まえて、現場との連携を図りながらすすめていかななくてはなりません。日渡氏の人物やこれまでの経験、実績を否定するものではありませんが、地域の子どもの教育を地域で創り上げていくという教育における住民自治の観点からも、教育委員の構成は、地域に関わりの深い人の中から選ぶべきです。

こうした点を指摘して反対討論と致します。

以上